

# 季刊 現代の理論

題字/勝井 三雄 + 中野 豪雄

HOME

現代の理論とは

編集部だより

刊行ナンバー

配信申込・無

第7号目次へ→

## 論壇

### 給付型奨学金の実現を参院選の争点に

貧困化と雇用劣化を背景に危機的な現実

中京大学教授 大内 裕和

借りねば進学できない奨学金利用者の急増

奨学金制度の金融事業化

奨学金返済の困難

大学進学を強いられる労働市場の構造変動

奨学金制度改善へ向けての動き

今後の課題

### 借りねば進学できない奨学金利用者の急増

奨学金問題が社会の焦点となっている。このことは奨学金制度の変化に加えて、社会の急速な貧困化と雇用の劣化を背景としている。ここでは奨学金問題の現状と課題をできる限りわかりや

## 論壇

- 給付型奨学金の実現を参院選の争点に  
中京大学教授/大内 裕和
- 問われる未来社会へのアーチブ  
橋下現象研究会/水野 博達
- 参加民主主義と討議民主主義を提唱  
成蹊大学名誉教授/富田 貴
- 自治体の公契約条例一広と課題（上）  
現代の労働研究会/小畑 精
- 辺野古代執行訴訟翁長知事見陳述（全文）  
沖縄県知事/翁長 雄志

可能性が高くなる。

延滞が4か月に達すると、延滞債権の回収を債権回収専門会社（サービサー）に委託する。そして延滞が9か月になると自動的に法的措置となり。日本学生支援機構は、地元の簡易裁判所などに支払い督促の申し立てをし、裁判所は当事者に「支払い督促」を発行する。裁判所から支払督促を申し立てられる奨学金滞納者は2004年にはわずか200件であったが、2011年には1万件にも増えている。

原資の確保を優先するのであれば、元本の回収がなにより重要なはずであるが、日本学生支援機構は2004年以降、回収金はまず延滞金と利息に充当する方針を続けている。2010年度の利息収入は232億円、延滞金収入は37億円に達する。これらの金は経常収益に計上され、原資とは無関係のところに行っている。

この金の行き先の一つが銀行で、もう一つが債権回収専門会社である。2010年度期末で民間銀行の貸付残高は約1兆円で、年間の利払いが23億円である。債権回収専門会社は同年度、約5万5000件を日立キャピタル債権回収など二社に委託し、16億7000万円を回収していて、そのうち約1億400万円が手数料として支払われている。奨学金が、銀行や債権回収専門会社に利益をもたらす「金融事業」となっていることがわかる。

15 「現代の理論」2016年2月  
大内氏執筆

## 大学進学を強いられる労働市場の構造変動

奨学金返済の困難を説明すると、それだけ進学が大変なのであれば、大学進学をせずに高卒就職の道を選択すべきだという議論がよく登場する。しかし、「高卒就職の激減」という労働市場の変化が起こっていることを見落としてはならない。

1991年のバブル経済の崩壊と経済のグローバル化の影響を最も受けたのが、高卒の就職・雇用状況である。高卒の求人数は1992年の167万6000人をピークとしてその後、急速に減少する。1995年には64万7000人とピーク時の半分以下となり、2011年には19万5000人にまで減っている。1992年の11.6%で、88%以上もダウンしたことが分かる。

高校卒業後の就職が厳しく制約され、半ば大学進学を強いられている状況が広がっている。大学に進学する学生に対して、「強い目的意識もなく進学している」とか「好きで進学しているのだから、財政的サポートは必要ない」という意見は的を外している。彼らの多くは、厳しい就職